

東郡家地区まちづくり委員会の取り組み

子どもは地域の「たから」



高齢者と子どもたちの新たな交流の輪が広がりました。普段、高齢者との生活経験のない子どもたちにとって、高齢者から昔ながらの生活習慣や伝統、知識、礼儀を学ぶことは、普段の生活では得ることのできない貴重な体験となっています。また、高齢者も、子どもたちと接することで元気をもらい、今まで以上にいきいきとした表情が見られます。

東郡家地区にある旧たから保育所は、平成27年3月に閉所するまで、多くの子どもたちが賑やかに通っていました。平成28年11月には、玄関やトイレ、調理場がバリアフリーの建物に改修され、東郡家地区福祉施設『ふれあいの里たから』として生まれ変わり、主に高齢者の集いの場となっています。

東郡家地区まちづくり委員会は、平成26年9月に設立した地域住民が主体的に地域福祉活動を推進する組織で、『ふれあいの里たから』を拠点に毎週火曜日に、「いきいき百歳体操」や「3B体操」などの介護予防・健康づくりのほか、食事会、お菓子づくり、小物づくり、特殊詐欺対策教室などを行っています。

東郡家地区まちづくり委員会の山根張太郎委員長は、「主に高齢者を対象とした地域福祉を中心に行ってきましたが、地域福祉の充実が高齢者との関わりだけでは達成できない。もっと幅広い年齢層に活動の輪を広げることで、地域共生社会が実現できるのではないかという思いが委員会のなかで芽生えた。子どもは地域の『たから』であることから、夏休み期間中に『ふれ

あいの里たから』を開放し、地域の子どもたちの居場所づくり、交流の場づくりを始めた。」と話す。

夏休みに施設を子どもに開放

集落支援員の平木千春さんによると、「初年度の平成27年度は試行ということで、1週間程度でしたが、年々受け入れ日を増やし、今年は夏休み期間中の月・水・金曜日を開放し、まちづくり委員会の事業推進員による見守りを行いました。また、金曜日には鳥取大学や公立鳥取環境大学の学生ボランティアによる「勉強会」も新たに始めることができました。さらに、火曜日には子どもたちや高齢者、鳥取市医療看護専門学校の実習生を交えての多世代の交流をしました。開放期間中、子どもの参加は1回あたり平均12人で、参加した大学生と一緒に宿題をしたり、グループを作って遊んだり、自由に過ごしていました。が、何度か遊びに来るうちに、高学年のお兄さん、お姉さんが低学年の子どもたちをまとめるようになるなど学校では学べない集団生活が身についたり、学校や近所では遊べない友達と遊んだり、子どもによい居場所となっている。」と話す。

『ふれあいの里たから』に行けば誰か

がいます。子どもたちからは「冬休みも来ていいですか」と次回に期待する声もあつたそうです。

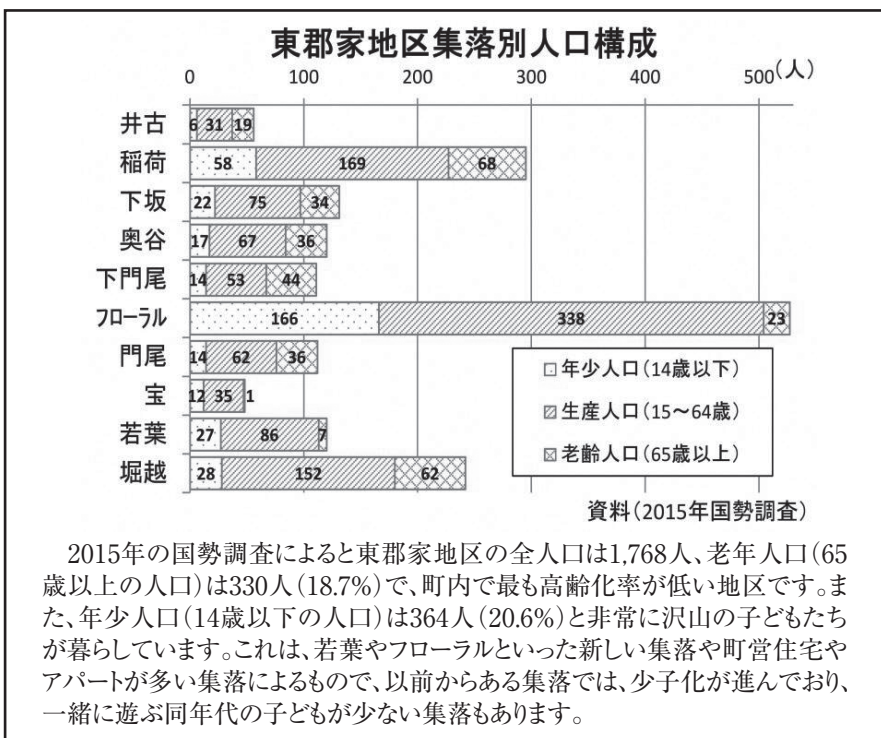
学生の福祉学習の実践の場

また、参加した大学生や実習生からは「学校では学べない、高齢者や子どもといった地域の方との接し方を学ぶことができた」「みんなの笑顔を見て元気をもらった」「地域の方が地元を誇りに思っている」「いきいき元気に過ごせる場所だと感じた」などの感想が寄せられています。核家族化が進む中、普段高齢者と接する機会のない学生が増えてきています。高齢者の方も学生たちに家族のことを尋ねたり、一緒にゲームをしたり、賑やかに交流の輪が広がっています。

山根委員長は、「今年は記録的な猛暑の中、たくさん子どもたちが訪れ、ケガや熱中症もなく元気に楽しんでもらえました。来春には、『ひまわり児童クラブ』が併設され、私たちの役割がますます重要になると思います。いつでも気軽に立ち寄って楽しんでいただける地域福祉の要の施設づくりについて、皆さんと知恵を出し合い、進化させたい。」と話していました。

東郡家地域では、地域住民が主体となり地域を活性化させる取り組み

が、徐々に広がりを見せ始めています。今後、高齢者や子どもたちだけでなく、独居世帯、障がい者、子育て家庭、ひとり親家庭などより多くの地域住民の方々にも参加していただき、地域のみならず住み慣れた地域でいきいきと暮らし続ける社会の実現にむけた取組が一層期待されます。



集落支援員
平木千春さん



委員長
山根張太郎さん

夏休みの子どもと高齢者のふれあい行事

【7月31日(火) カレー作り】

カレーが出来るまで、高齢者が行っている百歳体操の様子をのぞいたり、看護実習生と交流したりと賑やかに過ごしました。

【8月7日(火) そうめん流し】

事業推進員手づくりの本格的な竹のそうめん流し台で、みんなですうめん流しを楽しみました。竹の器や竹の箸を手作りし、子どもたちは手作りの良さや季節感を味わいました。子どもたちも交代でそうめんを流す側を体験し、声をかけ、タイミングを見ながら流していました。

【8月21日(火) スイカ割りとお宝探し】

夏休みも終盤、たくさんの子どもたちが遊びに来てくれました。看護実習生がお宝探しのカードを園庭に、子どもの目線になって隠している姿が印象的でした。スイカ割りの様子や割れたスイカにかぶりつく子どもたちの様子を高齢者の方々も微笑ましく眺めておられ、童心に返って楽しい時間を過ごしました。

